

安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	酸性追い焚き配管洗浄剤 (3.2 kg 400 g 袋×8個)
供給者の会社名称	クリーンアンドケミカル株式会社
住所	大阪府大阪市住吉区清水丘3-16-14
電話番号	06-6654-8577
FAX番号	06-6654-8577
緊急連絡電話番号	080-6175-9603

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	可燃性固体 区分外
健康有害性	急性毒性 (経口) 区分外
	皮膚腐食性及び皮膚刺激性 区分2
	眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分2A
環境有害性	水生環境有害性 (急性) 区分3
	水生環境有害性 (長期間) 区分3
	上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素 絵表示



注意喚起語

言口

危険有害性情報

H315 皮膚刺激

H319 強い眼刺激

H402 水生生物に有害

H412 長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き

取扱い後はよく眼を洗うこと。(P264)

他の容器に移し替えないこと。(P234)

環境への放出を避けること。(P273)

保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280)

物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。(P390)

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。(P302+P352)

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。(P362+P364)

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。(P332+P313)

眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。(P337+P313)

耐腐食性内張りのある耐腐食性容器で保管すること。(P406)

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

保管

廃棄

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の區別
化学名又は一般名

化学物質
スルファミン酸

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法番号	安衛法番号	
スルファミン酸	99%以上	NH ₂ SO ₃ H	1-402	既存	5329-14-6

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。 嘔吐物は飲み込ませない。
皮膚に付着した場合	皮膚を速やかに洗浄すること。外観に変化が見られた場合は、必要に応じて医師の診断をうけること。 多量の水と石鹼で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当を受けること。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 直ちに医師の手当を受ける。
飲み込んだ場合	医師の診断、手当を受けること。 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	吸入： 灼熱感、咳、息切れ 皮膚： 発赤、痛み、水疱 眼： 発赤、痛み、重度の熱傷 経口摂取： 胃痙攣、灼熱感、咽頭痛、嘔吐、ショック エアゾールを吸入すると、肺水腫を引き起こすことがある。 肺水腫の症状は2~3時間経過するまで現れない場合が多く、安静を保たないと悪化する。従って、安静と経過観察が不可欠である。医師または医師が認定した者による適切な吸入療法の迅速な施行を検討する。
医師に対する特別な注意事項	

5. 火災時の措置

消火剤	水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素
使ってはならない消火剤	棒状注水（あふれ出た水溶液が強酸、腐食性を示す。）
特有の危険有害性	加熱や燃焼により分解し、窒素酸化物、イオウ酸化物を含む有毒で腐食性のヒュームを生じる。 本物質の水溶液は強酸であり、塩基と激しく反応し、腐食性をしめす。
特有の消火方法	消火活動は風上から行い、周囲の状況に応じた適切な消火方法を用いる。
消火を行う者の保護	消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業に際しては適切な防護具を着用し、飛散しない方法で回収する。 関係者以外は近づけない。
-----------------------	---

環境に対する注意事項	強酸性の物質であるため、河川等に排出され、環境に影響を及ぼさないように注意する。
------------	--

封じ込め及び浄化の方法及び機材	危険でなければ漏れを止める。 付着物、回収物などは、関係法規に基づき速やかに処分する。
-----------------	--

二次災害の防止策	情報なし
----------	------

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
安全取扱注意事項	取扱後は、手、顔等を良く洗い、うがいをする。 目、皮膚および衣類に触れないように適切な保護具を着用する。 保護具や器具類などは耐食性のものを用いる。 換気の良い場所で取り扱うこと。 粉末状で取扱う場合は密閉された装置、機器を使用すること。 取扱い後はよく手を洗うこと。
衛生対策	
保管	
安全な保管条件	保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。 耐腐食性の内張りがされているもので、適切な容器で貯蔵すること。 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。 容器は直射日光や火気を避け、冷暗所で保管すること。 亜硝酸類、活性塩素化合物（さらし粉など）と隣接して保管しないこと。 長期間の保管を避ける。 安全な容器包装材料
	国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策	本製品を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 取り扱いについては出来るだけ密閉された装置、機器または局所排気装置を使用する。 装置や薬品の移送に用いるホースなどは耐食性や耐熱性のあるものを用いる。
保護具	呼吸器保護具を着用すること。 ゴム、ポリエチレンなど耐食性のある手袋。 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）。 顔面用の保護具を着用すること。 適切な保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

外観	
物理的状態	その他
形状	結晶状粉末
色	白色
臭い	無臭
臭いのしきい（閾）値	データなし
pH	情報なし
融点・凝固点	205°C(分解)
沸点、初留点及び沸騰範囲	情報なし
引火点	引火せず
燃焼又は爆発範囲	
下限	データなし
上限	データなし
比重（密度）	2.03(12°C, 4°C)
溶解度	水: 14.689g(100g, 0°C), 水: 47.08g(100g, 80°C), 70%硫酸に不溶, 液体アンモニアに可溶, ホルムアミドに可溶, メタノールに可溶, エタノールに可溶, アセトンにやや可溶, エーテルに難溶
n-オクタノール／水分配係数	情報なし
自然発火温度	情報なし
動粘性率	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	本物質の水溶液は強酸であり、塩基と激しく反応し、腐食性を示す。
化学的安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる
危険有害反応可能性	加熱や燃焼により分解し、窒素酸化物、イオウ酸化物を含む有毒で腐食目、皮膚および衣類に触れないように適切な保護具を着用する。 保護具や器具類などは耐食性のものを用いる。 換気の良い場所で取り扱うこと。 粉末状で取扱う場合は密閉された装置、機器を使用すること。 取扱い後はよく手を洗うこと。
衛生対策	
保管	
安全な保管条件	保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。 耐腐食性の内張りがされているもので、適切な容器で貯蔵すること。 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。 容器は直射日光や火気を避け、冷暗所で保管すること。 亜硝酸類、活性塩素化合物（さらし粉など）と隣接して保管しないこと。 長期間の保管を避ける。
安全な容器包装材料	国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

11. ばく露防止及び保護措置

設備対策	本製品を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 取り扱いについては出来るだけ密閉された装置、機器または局所排気装置を使用する。 装置や薬品の移送に用いるホースなどは耐食性や耐熱性のあるものを用いる。
保護具	
呼吸器の保護具	呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	ゴム、ポリエチレンなど耐食性のある手袋。
眼の保護具	保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）。
皮膚及び身体の保護具	顔面用の保護具を着用すること。 適切な保護衣を着用すること。

12. 物理的及び化学的性質

外観	
物理的状態	その他
形状	結晶状粉末
色	白色
臭い	無臭
臭いのしきい（閾）値	データなし
pH	情報なし
融点・凝固点	205°C (分解)
沸点、初留点及び沸騰範囲	情報なし
引火点	引火せず
燃焼又は爆発範囲	
下限	データなし
上限	データなし
比重（密度）	2.03 (12°C, 4°C)
溶解度	水 : 14.689g (100g, 0°C), 水 : 47.08g (100g, 80°C), 70%硫酸に不溶, 液体アンモニアに可溶, ホルムアミドに可溶, メタノールに可溶, エタノールに可溶, アセトンにやや可溶, エーテルに難溶
n-オクタノール／水分配係数	情報なし
自然発火温度	情報なし
動粘性率	データなし

13. 安定性及び反応性

反応性	本物質の水溶液は強酸であり、塩基と激しく反応し、腐食性を示す。
化学的安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる
危険有害反応可能性	加熱や燃焼により分解し、窒素酸化物、イオウ酸化物を含む有毒で腐食性のヒュームを生じる。
避けるべき条件	本物質の水溶液は強酸であり、塩基と激しく反応し、腐食性を示す。
混触危険物質	加熱や燃焼
危険有害な分解生成物	塩基、塩素、発煙硝酸、水 窒素酸化物、イオウ酸化物を含む有毒で腐食性のヒューム、硫酸水素アンモニウム

14. 有害性情報

急性毒性	
経口	フットのLD50値、>2000 mg/kg (OECD TG401 :GLP)、3160 mg/kg、2065 mg/kg、1450 mg/kg、1600 mg/kg (以上、IUCLID (2000)) より、区分外に相当3件、区分4に相当2件により、該当数の多いJIS分類基準の区分外 (国連分類基準の区分5) とした。
経皮	データなし。
吸入	吸入 (気体) : GHSの定義における固体である。 吸入 (蒸気) : データなし。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	急性毒性: 吸入 (粉じん、ミスト) : データなし。 ウサギを用いた試験 (OECD TG404 : GLP準拠) で刺激性あり (irritating) の結果 (IUCLID (2000)) 、さらに別にウサギを用いた複数の試験では刺激性なし (not irritating) ~重度の刺激性 (highly irritating) の結果 (IUCLID (2000)) が得られている。これらの結果に加え、EU分類では、Xi; R36/38に分類されていることから、区分2とした。なお、1%溶液のpHが1 18との情報 (Merck (14th, 2006)) もある。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	ウサギを用いた試験 (OECD TG405 : GLP準拠) で刺激性あり (irritating) の結果 (IUCLID (2000)) 、さらに別にウサギを用いた複数の試験では中等度の刺激性 (moderately irritating) ~重度の刺激性 (highly irritating) の結果 (IUCLID (2000)) が得られている。これらの結果に加え、EU分類では、Xi; R36/38に分類されていることから、区分2Aとした。なお、1%溶液のpHが1 18との情報 (Merck (14th, 2006)) もある。
呼吸器感作性	データなし。
皮膚感作性	データなし。
生殖細胞変異原性	マウスに経口投与による赤血球を用いた小核試験 (OECD TG474:GLP準拠) (体細胞in vivo変異原性試験) において陰性 (IUCLID (2000)) の結果に基づき、区分外とした。なお、in vitro試験では、Ames試験の陰性結果の報口がある (IUCLID (2000)) 。
発がん性	データなし。
生殖毒性	データなし。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	データなし。
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	フットを用いた90日間混餌投与試験 (OECD TG 408; GLP)において、高用量の20000 ppmで成長遅延、臓器重量増加、一部の動物では腎尿細管のわずかな脂肪変性以外に影響は認められていない (IUCLID (2000)) 。また、NOAELが10000 ppm (500 mg/kg bw/dayに相当) と報口されていることに基づき、経口経路では区分外に相当するが、他の投与経路によるデータがなく「分類できない」とした。なお、ヒトで酸性ヒュームの長期曝露により慢性咳を伴う気管支刺激や気管支肺炎がよく起こるとする記述 (DHP (13th, 2002)) がある。
吸引性呼吸器有害性	データなし。

15. 環境影響情報

水生環境有害性（急性）	魚類（ファットヘッドミノー）における96時間LC50 = 70 3 mg/L (ECETOC TR91, 2003) であることから、区分3とした。
水生環境有害性（長期間）	急性毒性区分3であり、急速分解性がない (BIOWIN) ことから、区分3とした。
生態毒性	情報なし
オゾン層への有害性	データなし

16. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方自治体がその処理を行なっている場合はそこに委託して処理する。 水溶液は、強酸性を示すためアルカリで中和した後処理すること。 関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
汚染容器及び包装	

17. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報	IMOの規定に従う。
UN No.	2967
Proper Shipping Name	SULPHAMIC ACID
Class	8
Packing Group	III
Marine Pollutant	Not applicable
Transport in bulk	Not applicable
accordng to MARPOL 73/78 Annex II and the IBC code	

航空規制情報	ICAO/IATAの規定に従う。
UN No.	2967
Proper Shipping Name	SULPHAMIC ACID
Class	8
Packing Group	III

国内規制

陸上規制	特になし
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
国連番号	2967
品名	スルファミド酸
国連分類	8
容器等級	III
MARPOL 73/78 附属書II 及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質	非該当

18. 適用法令

外国為替及び外国貿易法	輸出貿易管理令別表第1の16の項
船舶安全法	腐食性物質（危規則第3条危険物口示別表第1）
航空法	腐食性物質（施行規則第194条危険物口示別表第1）
港則法	その他の危険物・腐食性物質（法第21条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める口示別表）
外国為替及び外国貿易法	輸出貿易管理令別表第1の16の項

19. その他の情報

20.

参考文献 16918の化学商品、化学工業日報(2018)

その他

この情報は新しい知見により改訂されることがありますのでご了承ください。ここに記載された情報は、当社で調査できる範囲の情報であり、情報の正確さは保証するものではありません。化学品には予見できない有害性がありうるため取扱いには細心の注意を払ってください。本品の適正な使用については、使用者において行ってください